

体験版  
プロローグ

俺は哀川涼。

女好きの探偵だ。

依頼があれば、ボディーガードから迷子のペット探しまで、なんでもやる。

ただし——  
俺が動く条件はひとつ。

依頼人の想いが、俺の心を震わせたときだけだ。

報酬は、金か——もっこり一発。

どちらを選ぶかは、依頼人次第。

新宿。

ネオンの裏側には、救われない声が沈んでいる。

俺は、その隙間で生きている。

——

## 第一章 女子アナとZの文字

「.....来たか」

事務所のドアが、静かにノックされた。

現れたのは、帽子とサングラスで顔を隠した美女。

「高宮恵理子です.....」

その名前を聞いた瞬間、俺の脳内でファンファーレが鳴った。

朝の情報番組の人気女子アナ。  
“お嫁さんにしたいランキング” 常連。

だが、その手は震えていた。

差し出された封筒の中には、たった一文。

『お前を殺す。警察に言えば家族も消す』

そして、文末に――

Z

それは、依頼人からの合図。

“もう後がない” という、最後のSOS。

俺は笑った。

「引き受けよう」

彼女の瞳が、わずかに潤む。

「本当に……？」

「美女が困ってるんだ。断る理由がない」

――

## 第二章 仕掛けられた罠

局に届いたファンからのぬいぐるみ。

一見ただのプレゼント。

だが――

「……ルナ」

「うん。中に何かある」

俺はぬいぐるみを裂いた。

中から出てきたのは、小型盗聴器とGPSタグ。

「やはりな」

青ざめる恵理子。

「私……ずっと見られてた？」

俺は、彼女を引き寄せた。

「大丈夫だ。俺が守る」

その瞬間。

物陰から、視線。

(.....いるな)

敵は、近い。

しかも——内部だ。

——

### 第三章 距離

深夜の局。

照明が落ちた廊下。

「哀川さん.....」

恵理子の声が震える。

「私、逃げるのは嫌なんです」

守られるだけの存在でいたくない。

そう言って、彼女は一步踏み出した。

その強さに、俺は少し驚いた。

「いい目をするようになったな」

距離が、縮まる。

だが——

楽屋の扉が閉まった瞬間、  
彼女は消えた。

——

体験版ラスト（続きが気になる締め）

暗い地下駐車場。

逃げる影。

追う俺。

「次は、逃がさない」

拾い上げた社員証。

そこに刻まれた名前。

——テレビ局、内部犯。

そして、俺の父の名を知る男。

物語は、ここから加速する。

——

続きは製品版で

- ・ 歪んだ愛の正体
- ・ 父の過去との因縁
- ・ 恵理子との距離
- ・ 報酬は“金”か、それとも——

『City Angel』本編 約40,000字収録。